

緑の宝



2013
新年号
No.57



日本平公園より

目次

会長挨拶	P2
知事挨拶	P3
24年度都市緑化樹木育成管理技術講座	P4
第36回全国育樹祭（育樹会場の管理協力支援）	P9
庭園に係る仕事に（静大生のインターンシップ）	P9
花・緑タウンフェアin沼津2012	P11
緑の相談所（樹木の相談お気軽に）	P11
公共緑化施設巡回指導	P12
造園・緑化へ 就労を支援	P12
地域コミュニティへの緑化技術支援	P12
みどりのおたより（静岡県環境ふれあい課）	P13
（静岡県公園緑地課）	P13
（静岡県みかん園芸課）	P14
静岡県造園施工管理技士会（会長挨拶・技術研修会）	P15
表彰	P15
第5回静岡県景観賞・協会日誌	P16

新年のご挨拶

公益社団法人静岡県造園緑化協会会長

片桐 利男



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には希望も新たに健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

日頃より協会運営に当たりましては多大なるご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

私も協会も昨年より公益社団法人に移行しましたが、社会全般の人々の為になる利益の推進を目指し、公益社団法人として都市緑化のみならず自然地域にわたる環境空間を保全、創造し、秩序付けする造園建設業の任務を果たすべく、造園の専門領域のみならず関連する建設分野や自然環境分野など周辺領域

に関する幅広い技術と知識を培い良好な景観と緑豊かな環境の形成を図り一層の社会貢献に努めて参る所存であります。

さて、待望の新東名高速道路が昨年4月に本県内で開通し、その経済波及効果は総体で百億円以上にもなるであろうと報道されまして大きな期待をもたらしてくれました。

また、11月には第36回全国育樹祭が伊豆のあまぎの森で開かれ「木を植えて 育てて活かす 緑の力」をスローガンに行われ、緑に携わる我々業界も緑の大切さを未来にまでもしっかりと伝えていかなければならないと思う次第です。

何かと暗いニュースの多い中、昨年ロンドンで開かれたオリンピックで日本人選手の大活躍は多くの日本人に勇気と感動を与えてくれました。何事にも前に向って進んで行くことを改めて教わりました。

今年もまた大変に厳しい経済状況の中での新しい年を迎えましたが、地球上には同じ一月であつても冬の所もあれば夏の所もありま

す。同じくたとえ冬空におおわれているような苦境の中にあつたとしても、その胸中には未来に春や夏が存在していることを忘れなければ、どんな困難も見方を変えれば成長へのバネとして一歩また一歩と前進していくことができると思うものであります。

多くの人に安らぎと潤いを与える緑化工事に携わる県下唯一の緑化の公益法人に誇りを持ってその任務を全うしていかなければならないと思うものであります。

今年こそ災のない静かな年であることを願うとともに、会員皆様方の益々のご健勝を祈念いたしまして新年のご挨拶いたします。

新年のご挨拶

静岡県知事

川勝 平太



明けましておめでとうございます。

健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから、本県の緑あふれる豊かな暮らし環境の創造に御尽力いただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

昨年は、皇太子殿下御臨席の下、伊豆市のあまぎの森や袋井市のエコバアリーナなどを舞台に、第36回全国育樹祭を開催いたしました。「森林資源の活用」とそのための「人づくり」の大切さを理解し、参加、実践することにより、美しく力強い森林を次代につな

いでいくという考えを広く発信することができました。貴協会及び会員の皆様におかれましても、開催に当たり様々な面で御協力を賜り、誠にありがとうございました。

今日の都市緑化に伴って、大きく生長した街路樹等の適切な管理が課題となつていきます。管理を誤れば、倒木など大きな事故につながりかねません。貴協会では、まちの大切な緑を次代につないでいくため、管理技術の講習会を積極的に開催されていると伺っています。課題に真摯に対応するため技術の研鑽に努められていることに、深く敬意を表します。

県では、まちの緑を充実させる取組の一環として、今年度から「芝生文化創造プロジェクト」をスタートいたしました。より多くの県民の皆様には、芝生の良さを知っていただき、芝生に対する理解を深めていただけるよう、関係団体等と連携し、芝生地を拡げるための活動への支援を進めています。昨年10月には、人々が常に美しい緑の芝生と触れ合う

ことができるよう、磐田市に所在する静岡県農林技術研究所に芝草研究所を設け、専門スタッフを配置して研究調査に着手したところ です。

また、来年は、浜名湖花博10周年記念事業と第31回全国都市緑化しずおかフェアの同時開催の年になります。開催前年の今年度は、実行委員会において花き産業の振興、地域振興及び都市緑化の推進を図るため、貴協会を始めとする関係団体の皆様と連携して開催準備を進めてまいります。

ふじのくに「静岡県の花と緑を充実させ、魅力を高めていくためには、専門技術を備えた貴協会のお力添えが必要です。会員の皆様におかれましては、今後とも御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますの御発展と皆様の御健康と御活躍を心からお祈りし、新年の御挨拶といたします。

24年度都市緑化樹木育成管理技術講座

都市の緑の健全な育成のため、生長を踏まえた適正な管理技術に関する「都市緑化樹木育成管理技術講座」を11月に4回にわたり開催しました。今回は第1回目の講義をご紹介します。

都市緑化の意義と樹木の育成管理

東京農業大学教授
濱野 周泰



■はじめに

これまで緑化という中でほとんど全てで進んできました。ところが、最近では、緑を作る場所も減ってくる、あるいは抑えられるということがあります。

樹木は、草本と違って、毎年生長します。今年植えると、

思想が貫き通された為に、今、健全な樹木が生育しています。

計画設計の段階でしっかりとしたものができる、施工する人達があとで苦労します。言い換えると現場がもっと設計計画に上げていくことも必要だと思います。とてもじゃないけど現場対応できないということもあるかと思えます。

「本田の首かけイチヨウ」と云うものがあります。これは、日比谷公園の拡張に伴って移植したもので、東京大学の本田先生が、自身の首を賭けて移植しようとした木です。今、木を植えるのに命を懸けている人がいるでしょう。木一本一本、灌木一株一株、私どもは真剣に取り扱わなければいけません。



■都市が造る環境

今回の講座のテーマは、「都市緑化の意義と樹木の育成管理」という二つの大きなテーマです。

都市は人の生活が集積をしているところ。その都市は少しずつ巨大化しています。巨大化するということは、インフラをどんどん整備していかないと追いつきません。インフラというのは実は道路であり構造物が主体です。インフラが整備され、そして開発されてくる。少しずつ経済性が優先してくる。経済が活発化し、都市の高度利用、空間の高度利用が始まります。必然的にオープンスペース、緑地がなくなってきました。言い換える、緑を軽視するということ。我々の生活は、緑を基盤にしています。つまり、自然が無くなってくると、生き物の住む場所では無くなり、単なる樹木だと島だと。昆虫だけではありません。人間も含めて生きる場所が無くなるのです。今、環境も都市が造っています。ここでは緑が必要だということで、樹木を植えたり生活の基盤をつ

くろうとしています。モノカルチャーと言われるように単一の限られたものでできている。



例えば、街路樹のイチヨウの木が大きくなり管理が大変だということ。東京では、「都の木」ですが最近では植えていません。東京ではハナミズキが二番目に増えまして、なぜハナミズキなんでしょう。このことは設計計画の人間によく考えてもらいたい。ハナミズキを考えてみると、春の花がヤマボウシと違って葉が出る前に花が咲きます。そして夏の清涼になった時の緑葉、濃すぎず薄すぎず、適当な緑の葉で樹冠ができあがります。そして秋の紅

葉、葉が落ちた後の冬枯れの姿。どれをとっても嫌われる要素はありません。またハナミズキは管理しやすい、一定の高さになるとそれ以上生長しない。植木業界では早期樹形安定木という言葉を一時使ったことがあります。つまり東京あたりでは、6~7mの高さになると伸長生長は緩慢になってしまいます。枝もそうです。ということは、剪定をする経費が落とせるという訳です。しかし、早く樹形が安定するということは、それだけ根に負担が掛かるということです。日本にはヤマボウシがありますが、ハナミズキはアメリカのベンシルベニアに近い所、気候が全然違うところのものです。ですからウドンコ病がよく出ます。ウドンコ病がひどくなると萎縮病のようになってしまいます。地上部には昆虫の害はあまり出ませんが地下に出ます。小さいうちは根を切りまします。ましてや道路のような幅射熱がすごい、夏の熱風が通る場所、そこに植えるといえます。それを考えても東京の街路にハナミズキは如何なも

のかと思います。東京を乾燥、高温という、言い換えれば砂漠のような二つの大きなインパクトになる環境に生じました。その為に多様な生物が生活できなくなっています。やはり多様な生物が、根本となる緑が生活できる空間を創る、維持する、それが基本だと思います。●

■緑は生活の根源

緑の機能は色々あります。私たちの生活環境、気象、長い目でみれば気候を調節するという大きな機能があります。一方で緑は私達の生活の根源、生態系の中心にいて食物連鎖の出発点でも有ります。生き物として動物、植物がお互いに連携することで一つの循環をつくることで健全な環境を創ってくれるその中心。緑が無くなるということには有機物を生成する根源、私達が食料にする有機物をつくる根源が無くなるということ。あるいは情操教育のものと。その間接的に人間に作用する方が大変重要です。しかし一つ問題がありまして間接的ですからその間を取り持ってくれるインターフェイ

スが必要です。これが今すぐ脆弱になっています。インターフェイスは何か、学校の先生です。小学校教育の先生は、目の前にある生活環境を構成しているものについて熟知していることが必要です。小学生が「先生、これ何?」と聞き、それに対して的確な答えを出さないから今の理科離れが起こっているのです。今、学校教育と専門の方々の連携ということが大変重要です。是非皆さんも地域の緑の講座、地域学など地域社会を知ること、目に触れるものの情報提供という時間を作るべきだと思います。私も世田谷区や杉並区で環境教育を行っています。資源の根源、そのために好奇心が必要だということを是非主張していただきたい。

緑が必要ですが、限られた土地を生活と分け合わなければなりません、共存する必要があります。その時に人の生活を基準に考えて都市にどの位の緑が必要かということの色々研究しました。過去には色々言われていますが30%の緑地、解放区域、オープンスペースが必要だろうと言われていて。その30%というのは降雨量に対する土壌を媒体にした大気蒸散の循環値、これがプラス、マイナスほぼゼロの数値です。ですからよく緑化率30%の目標を自治体で掲げますが、何の根拠も無い話ではなく、科学的な根拠をもっているのです。

緑が生き物に対して重要だという例としてお話しします。ある会社の山梨県にある森を、私達の研究室で関わり合せていただいています。森が健全になると木が太ります。太りますと樹脂の生成が追いつかなくなり、その為に樹皮の間が裂けて幹割れになりまします。それがひどくなって樹液が出てきます。それが酸化すると昆虫類の食草材となり、浸み出たところに昆虫が寄って来ます。オオムラサキ、カブトムシ、ノコギリクワガタ、カナブン、スズメバチが来ます。

みんな仲良く昆虫は食事をしています。この事を教えるといじめはなくなってきました。スズメバチは昆虫の中でも厄介者、昆虫の中で食われてしまうものもある訳だから。でも飯を食べる時は一緒にスズメバチを仲間はずれにはしない。おまえあつちへ行けとは言わない。人間の社会は少し違いますね。毛色が変わっていると、均一でない性格の子がいるとあつちへ行け。これは多様性を無視している。生き物の多様性を教えるといじめはなくなるはず。その根源は先ほども言いましたように小学校教育からスタートしています。●





■緑と地下水が減少する

原宿の同潤会アパート、表参道にケヤキ並木があります。同潤会アパートの方にも樹木があり、木つたや低灌木がありました。潤いのある境界でしたが、建て替えられて新しいタイプのアパートメントになってしまいました。目の視点から見ると、緑の緑視率という言い方をしますが、潤い豊かな都市という印象があります。それが今、建物の壁面と少し灌木がありますが、緑に対しての印象が薄くなった場所になってしまいました。自然の循環の中には大きな水があります。水の循環を

健全に保とうとすると間に植物を媒体にすることが重要となります。雨が大地に降って一気に海に流れるのは、現在の都市の構造、表面排水をしていますから、東京では、土地がないので環状7号線の下に放水溝に湧水機能を持たせたり、あるいは大田区の地下に排水溝を造って湧水機能をもったプールを作っています。そんなものを作るなら、なぜ大地の上の土地を確保してくれないのか。地下の中にある湧水プール、誰が見ますか、単なる災害の防除だけというものです。雨が大地に降り、オープンスペースの植物が大地から水を吸い上げて蒸散、大気に出ます。この循環、つまり雨をオープンスペース、解放大地に浸透させなくてはいいけない。地下水のかん養はその地域の文化の継承にもなります。東京の場合には武蔵野台地を背負っていて、そこには沢山の池があります。その池がすべて潤わされてしまう。ポンプで水を流せばいいじゃないかという話もあるが、維持費がかかるから夜は止まってしまう。何か

私達の生活の根源が壁にあるスイッチでオン、オフを繰り返されながら環境が提供されているように感じたりませぬ。都市の生活者にとっては自然のシステムの保持が大切なことだと思えます。

■緑の厚みが都市の温熱をリセットする

イチヨウを遠くから見ますと綺麗な彩りをつくってくれていますが、人間のスケールでは樹冠の下が生活の空間となります。都市の緑は、景観として見ることで享受する、この二つの役割があることにまず気付くべきだと思います。巨樹、大径木、老木には水の循環が大変重要であります。このイチヨウ並木が健全なのは近くに大きな広場があって、水をかん養でき空間が十分に確保されています。そしてこの植物の高さ、これは低いものより高いもの、つまり地表への環境効



果というものは樹高が高くなれば高くなるほど大きくなります。これは樹高が75〜80m位の樹木です。そこから地表まで75〜80mの厚いオブラーに包まれていることになり

そこでは色々な動物が生活を担保しています。そして人間も自分たちの生活圏を確保しています。森から色々なものをいただく、食べ物として享受する、あるいは定住して環境の範囲内での生活をしていきます。熱帯環境を緩和するという点から言いますと、厚みがあればあるほど地表への温熱の蓄積というのは少なくなりますし、しなやかになります。

■園芸、緑の維持活動が樹木の生育を担保

都市緑化の要点として、目に見えない所への気配り、根から下が重要になります。地上部に現象として現れて常に見ることが出来ます。地上に現れている症状は大気環境からくる負の要因もありますが、目に見えないところからその現象は始まっているということです。樹木の健全生育を期待するには適正な土質と土壌環境が重要です。都市の樹木の生活が難しいのは、一つは非生物的環境、乾燥や高温と構造物を造っているところから出てくる他の化学物質を含めて人工環境として造られていることです。そして生物的環境、これは単純性をどんどん進め、あるいは生体用語でいいますと反多

様性といえます。一方で生物学的欲求として、都市では園芸活動、ガーデニングがブームになり、植栽したり園芸講座、観察会も盛んに行われています。あるいは地域のボランティア等の緑の維持活動なども行われています。ですから、生物学的欲求をどんどん展開することが、都市の樹木の生育を担保するひとつの要因となると思っています。●

■生活の集積が緑を危くする

都市の環境、人工環境を社会活動による影響としてみますと、地表は道路、建造物に覆われているということになります。そして地表では雨は浸透しないという状況です。東京はコンクリート砂漠、樹木の生育場所はどこも小さいものです。今、地下が危ない。先程言いました地下に水路を作っているが、その構造物の上は、地上から数m、数十mあります。言い換えれば、人工地盤と同じことになります。非生物的環境が生き物に働きかける前に、乾燥ですとか高温が働きかけます。そして地表が舗装されているというところは、根は呼吸できない、大地の本来あるべき通気、送水、その機能が失われているということになります。東京は花の都ということですが、ソメイヨシノを街路樹にたくさん植えました。それが歩道を押し上げるようになつて、改修の時に、根もかなり処置しています。それで根を切られると、地上部に必ず影響が出てきます。枯れ枝がどんどん出てきて、衰弱していきます。また、大きくなる空間を占有するため「強剪定をして樹形を小さくしなさい。」となります。工事に伴う損傷や大型トラックによる枝の擦り、このような私達の生活の集積というのが事を大きくしています。●

い、大地の本来あるべき通気、送水、その機能が失われているということになります。東京は花の都ということですが、ソメイヨシノを街路樹にたくさん植えました。それが歩道を押し上げるようになつて、改修の時に、根もかなり処置しています。それで根を切られると、地上部に必ず影響が出てきます。枯れ枝がどんどん出てきて、衰弱していきます。また、大きくなる空間を占有するため「強剪定をして樹形を小さくしなさい。」となります。工事に伴う損傷や大型トラックによる枝の擦り、このような私達の生活の集積というのが事を大きくしています。●

■樹木の管理は

樹木の生理を知る者が

植物の水の移動と言うのは、三つの要素があります。一つは、根が浸透圧で土壌から水分を体内に取り込めます。そしてもう一つの方は、葉から蒸散する時の負圧、これで水が引つ張り上げられる。問題はその間です。浸透圧で上がったものが、葉がないところも幹や枝をつたってきま

す。これは水の凝集力。浸透圧で体内に入ったものが凝集力で引つ張られて、それを手助けしているのが葉の蒸散力。この三つが揃いますと、例えば1200m～1300mの木でも枝の先まで水が行き渡ります。ところが、この浸透圧が正常に機能しない状態があります。東京などの都市の植樹の土壌は、水が少なく、土の方は乾いていますから下手をすると根からとけてしまします。あるいは塩分濃度が高ければ、吸水されてしまします。そういう状態にあると水は到達せず、枝枯れが出てくる。その時には高温乾燥の鐘が鳴ったということですが、しかし、高温乾燥があっても水がどんどん送られていれば、生活が持続できます。そのことが途中で抜けているのです。太い枝をバンバン切るといことは、途中の加圧ポンプを外すのと同じことになります。従って適正な樹木の形を維持することは、樹木の生理、樹木の個々の樹形を知っている方々の専門分野です。こうした知識のない者が剪定したらとんでもないこと

になります。

一方、病気も「主因」「素因」「誘因」の三つがあります。

主因は土壌にその原因の多くがあります。つまり、根が健全生長していることによって、樹体というのは健康に保たれています。もしこの根に障害がでて、乾燥があれば、本来あるべき菌根菌の活動が低下します。その典型がマツの材線虫被害です。従前はヤマカキを地上部の栄養化を止めていましたから、マツの菌根菌は健全でした。その為に少し乾燥状態になつても菌根菌が周辺の土から水を持ってきてくれる。ところが、菌根菌が働かなくなれば、マツの根は自分で、水分を確保できなくなり衰弱が始まります。いかに根の部分が大切かがよく分かります。また通気が悪いと嫌気性のカビが出て根腐れが起きることもあります。

とはいっても、樹木も生き物ですから寿命があります。樹木の寿命の限界説を唱

えられた先生もいます。生き物は全て環境の中でしか生活することができません。その事を考えますと、環境は生き物にとってマイナスのストレスになることもあります。●

■木にも寿命が

鶴ヶ岡八幡宮の大イチョウが倒れましたが、周囲の石段



は基礎がしっかり作ってあって、倒れる時でも石段は大大夫でした。実は、太い根は、倒れた時の重さで切れてしまつたのです。普通倒木がありますと、根が一緒に引きずり出されるかポール状になつた根と一緒にポロッと倒れます。ここでは土壌条件が良

かつお陰で、十分に根が広がって、倒れる時には自分の根が切断されたという訳です。こういう場合、木には寿命があるということです。

アカマツは、環境が瘦せ、他の樹木が生え難い場所では、楽に300年〜400年もちます。陸前高田のアカマツは樹齢170年位。ところが、あの周辺に倒れた木は樹齢270年位のモノがさらにありました。今回の津波でいかに植生攪乱をきたしたかを表したもので、実際には限界でもありました。周辺の落葉広葉樹が茂ってその中で残っているアカマツは枯れて当然です。それを守ろうとするのであれば、周辺の広葉樹を全部切っても、もう一回ビュアな状態の土壌に戻すことです。先ほどの山梨県の森もアカマツが主体です。アカマツが主体ですけれども、一本一本の木を健全にする、加圧ポンプを維持する為に、いかに樹形のいいモノを生育させる。その為に周辺のアカマツをほとんど間伐をし、今は当時の量の40%くらいしか残っておりませんが、残っている

木は健全に広がっています。またニセアカシアも本来はアカマツと同じように陽樹で、本当は最初の緑化が済んだら人為で全部除伐すべきです。それがニセアカシアを少し残しておこうとするから、そこから栄養を供給されてあちこちに出てしまいます。趣旨をお考え頂ければ、寿命の取り扱いがし易くなります。

■身近な緑の重要さを住民に

周辺の住民から「落ち葉が落ちる」と言われ、どんどん切られていくことがあります。しかし、生き物は必ず代謝し、結果として老廃物を排出する。動物の糞に相当するものが、植物では落葉と樹皮の剥離の二つです。一方、住宅を構えることは、環境を壊すと言われています。URの方にもよく言うのですが、その場所の説明を事前に良くしなさいと。「こういう木があつて落ち葉があります。夏は緑陰があつて大変いい。ただ秋には落ち葉の清掃が必要になる。どうですか?」と。緑化フェア開催会場の一つ、井の頭会場の周辺も開催に伴い緑地から綺麗に全部手を入



剪定方法(枝の選択)を語ったケヤキ

れました。そうしたら、隣接した住宅地の不動産価値が10%〜20%上がったといいます。静岡県では周辺にたくさん緑があり、このことを説明するのは大変かもしれない。先程の遠景と近景という考えを進めていた上で、身近な緑の重要さを訴えて欲しいと思います。

駆け足で話しました。ありがとうございます。

★講義では、ご紹介したほかに地下の問題での失敗例や水の確保の良い例など具体的な事例によりお話がありました。誌面の都合により割愛させていただきますことをお願い申し上げます。

また、午後は、会場周辺のフィールドを使って個々の樹木のこと、表情・現象について詳しくお話をいただき、楽しく、また意義深い一日となりました。



濱野先生には、心から感謝申し上げます。

第36回全国育樹祭

育樹会場の管理協力支援



皇太子さまのお手入れ(静岡県全国育樹祭推進課提供)



式典(静岡県全国育樹祭推進課提供)

「木を植えて 育てて活かす 緑の力」をテーマに、平成24年11月10日(土)に伊豆市のあまぎの森で、11日(日)には袋井市のエコバアリーナで開催されました。

皇太子さまは、式典で「緑を守り育ててきた技術や文化を次の世代に引き継いでいくことは極めて大切なことと考えます」とお言葉を述べられ、全国から多数の方々を集

め盛大に開催された育樹祭は無事終了しました。協会では、開催前の準備の段階から、樹木の生育管理などで協力支援をしてきました。

西部支部では、11月9日、18人が集まって、育樹活動会場の小笠山総合運動公園内3か所の森で、倒れた木の修復や清掃を行いました。

もともと風が強い地域で、さらに昨年は潮害がこの付近まで及ぶという厳しい環境のため、倒れた樹木もかなり残されていました。

また、11月10日、育樹祭の記念行事としてサテライト会場の天城ドームで「育樹技術交流集会」が開催され、森林や木材に関わる製品の販売な



あまぎの森での樹木の育成

東部支部では、9月から週1回程度の「あまぎの森」の巡視を行いながら、10月26日と11月5日に、樹木の手入れや清掃を行いました。



小笠山総合運動公園での樹木の修復

や庭園が好きで、将来は何か



環境森林科学科 谷口 純香

静大生の
インターンシップ

庭園に係る仕事に



天城ドーム入口の緑花装飾

どを行う「木とのふれあい広場」が設けられました。

東部支部では、会場入口に緑花装飾を設置し、来場者の皆さんに「一時の安らぎを提供し、行事に花を添えました。」

私は高校生のころから緑化や庭園が好きで、将来は何か

午後からは主に剪定した後の枝の片づけや下草取りを行いました。その後、この紅葉山庭園をずっと担当している望月さんにこの庭園のことについてお話を聞くことができました。

5日間の体験内容ですが、1日目は駿府公園内にある紅葉山庭園で行いました。午前中は伸びた枝の刈り込みをさせていただきました。機械で使うのは危険なため、機械では刈れない部分や刈り残しを剪定ばさみで切りました。後片付けを楽にするために植込みの下には青いネットを敷きました。

しらすのようなことに関わる仕事に就きたいと思いついていました。また、造園会社ではどのようなことを行っているのか知りたいと思い、今回のインターンシップに参加しました。

なっています。奥の方はお茶室となっており、公共のお茶室として裏千家・表千家両方が使えるよう、石の高さを揃えたり、飛び石の幅を中間ぐらゐの幅で据えていたということを教えていただきました。



刈込後の紅葉山庭園

ノキで、クスノキは柔らかく樹高もあまり高くなかったの
で、下枝の方を使って剪定方法
を教えたいただきました。
木によつて方法は異なるが、
木の内側や空にむかつて伸び
ている枝は切り、外に向かっ
て伸びている枝は残すとのこ
とだったが、やってみると難
しく、一本一本教えたいた
きながら切りました。

3日目はまず午前中の現場
に行く前に、庭を作り直して
いる個人の家の打ち合わせに
同行させていただきまし
た。以前は広い庭であつたのこ
とでしたが、駐車場にしてし
まい、家の裏に小さく庭を作
り直したとのことでした。

仕上げる確認や、新たに植
栽したいところ、工事の際に
こに車を停めたいかなどを
打ち合わせされていました。
この庭に使われている木や石
は作り直す前の庭にもともと
あつたものを使い、図面など
はなく、担当された方がバラ
ンスなどを見ながらその場で
作つたということでした。

その後、ホテルアソシアの
北側と東側の植込み内の下草
取りを行い、午後からは丸子

川の土手の刈り取った草を集
める作業を行いました。

4日目は、午前中は中田公
園にて草刈りを行いましたら
うて、使い方を教えていただき
ながら作業しました。

初めて草刈り機を使いまし
たが、あまり上手に使うこと
ができず大変でした。午後か
らは八幡山に移動し、草刈り
を行いました。私は刈つた草
などを集める作業をしました
が、ここでも今まで使つたこ
とのない機械を使わせてい
たきました。造園会社でイン
ターネットを行わなければ
このような機械を使うことは
なかなかないことだと思いま
す。



八幡山

最終日はある邸宅の庭の
改修工事に同行させていただ
きました。この日まででは芝

をはがしたりウッドデッキを
壊したりする作業を行い、こ
の日から作り始めたとのこと
でした。



庭の改修工事

芝生との境界となる石を置
いたり竹の柵を取り付けたり
する作業を行っていました。
私は石と石の間をモルタルで
埋める作業等をさせていた
きました。

家主さんと相談して設計
したものであったとのこと
でしたが、作業に入る前に家
主さんからやっぱりこうして
ほしいというように変更の依
頼がありました。実際できあ
がつてくると、イメージと
違つたということで急遽変更
になることはよくあることだ
ということでした。昔は図面
などなく、家主さんが石を置
く場所をその場で指示してい

たとのこと、気に入るまで
何度も変更するため一日で据
えることができた石は三つだ
けということはお聞きのこと
だつたということをお教えい
たきました。実際に図面も
見せていただきました。

5日間いろいろな方にお
世話になり、お話しさせてい
たきました。

私が将来は庭を作りたい、
工事や植栽もやってみたいが
自分で設計もしてみたいと話
すと、皆さん必ず、自分の作
りたいと思ういい庭と作りた
いならば現場を知つておいた
方がいい、とおっしゃってい
ました。現場を知らない人が
設計した庭は、植物の育ちに
くひ、もしくは枯れてしま
うものであつたり、植栽する
のに到底無理なことがよくあ
るらしく、現場の人達は勝手
に変えてしまふとのことでした。
また、設計時に植栽する木
を、写真を見るだけで決めて
しまつたため、設計通りにで
きても、パランスの悪いイメ
ジとは違うものができてしま
うということでした。現場を
知ること、よいものを見て感
性を磨くこと、木について知

剪定した木はケヤキとクス

ることが大事だと教えていただきました。また、以前は設計事務所勤めていた方もいらったため、設計事務所での仕事の内容や、どのような生活であったかも教えていただくことができました。

造園会社といっても庭を作るだけでなく、公園や街路樹などの管理を行っていることは聞いていたが、思っていたよりも公共の仕事が多く、仕事の幅が広いことが驚きでした。現在では、様々な理由から新しく庭を作ることはほとんどなく、逆に壊すことの方が多いとのことでした。これからは植物に関わることなく、色んなことをやっていたい、造園会社は生き残ってはいけないうらやまを感じました。

短い期間ではありましたが、今回のインターンシップに参加してみても、やっぱり私は植物が好きで、それら自然の物を用いて何かを「作る」仕事に就きたいと思いました。実習期間が8月の下旬であったため、毎日炎天下の作業で、そのようなことに慣れない私には体力的に辛いものもありましたが、そういうことを経験できたことも含めインターンシップに参加して本当によかったと思っています。

体調管理に気を遣ってくださった、作業の効率が悪くなるにも関わらず色々な作業をさせていただいたり、私の質問にも一つ一つ丁寧に答えてくださった現場の方々や、また、5日間という短い期間であるため、少しでも多くの現場を体験できるように計らってくださった社長さんに感謝し、この経験を今後の自分の就職活動の時や就職後に活かしていきたいと思っています。

花・緑タウンフェア in 沼津2012

11月23日(金)から25日(日)の3日間、沼津駅から中央公園の区域でフェアが開催されました。

東部支部では、中央公園に庭の展示、駅前の西武百貨店前には、天城ドームに設置した緑花装飾を設置しフェアを盛り上げるとともに緑の啓発活動を行いました。



庭の展示と緑の相談所



サンタを探す子供たち

初日、2日目とあいにくの雨模様と寒さでしたが、多くの皆さんが訪れてくれました。お子さま連れの家族が多かったのは、とても印象的です。

展示した庭では、サンタを探すゲームで楽しんでいただき、終日大変盛況で終えることが出来ました。



百貨店の前の緑花装飾



県立静岡がんセンター前

西武百貨店前の緑花装飾では、通行人の方から、「殺風景でうす暗いところ、明るく華やいといいね」との言葉をいただきました。フェア終了後は、長泉町の県立がんセンターで飾らせていただきました。

(東部支部)

緑の相談所

樹木の相談お気軽に
樹木は生き物で、季節に応じた管理が欠かせません。
元気で美しい樹木の生育を願って相談にお答えしていきます。

相談所は、三島市、沼津市、富士市、静岡市、浜松市などで開催された秋の緑のイベントに参加して開設し、多くの方々から剪定や病気などのご相談に対して助言させていただきました。

次回も気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。



富士市中央公園の緑の相談所

公共緑化施設 巡回指導

財団法人静岡県グリーンバンクとともに、県内37箇所の公共緑化施設について8月29日から延べ10日間にわたって行いました。

現地では、管理責任者とともに緑化施設の生育と管理の状況を調査し、必要な管理の内容や方法などの助言に重点をおいて実施しました。



伊東市

今年度は被害が広範囲に及んだり暑さが続くなど樹木にとっては厳しい環境だったにもかかわらず、樹木、緑地に目が届いておらず、肥料不足、水不足や病害虫対策、除草の不徹底が目立っていました。



静岡市葵区



葵平市

植栽後2年経って本格的に管理が必要な個所や生育状況の悪い個所に対しては、今後の適正管理を具体的に指導、要請しましたが、丁寧な管理によって緑の健全な生育を期待したいと思います。

造園・緑化へ 就労を支援

高齢者の就業を支援するため、造園、緑化に関する技能講習を行いました。

この講習は、厚生労働省の事業で、公益社団法人静岡県シルバー人材センター連合会が受託し実施するものです。

講習は、昨年10月23日の藤枝会場を皮切りに、両南会場が11月5日から、浜松会場が11月14日から、それぞれ7日間の日程で行いました。

講師は、高い知識、技術を有する技術委員会の委員を中心に静岡県造園施工管理技士会などの皆様に務めていただきました。



竹垣

受講者は48人と例年に比べ大幅に減少したものの、熱心にまた積極的に取り組んでいただきました。今後、受講した皆さんが緑の適正な管理に貢献していただくことを期待しています。(技術委員会)



根回し移植

地域コミュニティへの 緑化技術支援

11月19日(月)、静岡市清水区の蒲原中学校において校舎周辺の緑地の改善整備をPTAの皆さんと行いました。

中学校校舎周辺は、枯れてしまった樹木などがそのまま残っていて、決して美しいとは言えない状況でした。こん

な状況を緑豊かな空間に改善することとなりました。

植栽には、潮にも比較的強く管理も容易な「陽光」(天城吉野(アマギヨシノ))と寒緋桜(カンヒザクラ)と交配したサクラ、「サツキ」、「ツツジ」、「アジサイ」112本を選び、PTAの皆さんに技術指導を行いながら、一緒に行いました。

この緑の空間、樹木が、子供たちとともに育ち、子供たちの思い出の片隅に残ってくれることを心から願っています。(中部支部)



改善整備した緑地

こうした支援に関するご希望、お問合せがありましたら、協会までお電話ください。

みどりのおたより

静岡県くらし・環境部環境局 環境ふれあい課

「全国緑の少年団活動発表大会」で

少年団の交流を深めました。

11月10日（土）、第36回全国育樹祭の併催行事として、「全国緑の少年団活動発表大会」を袋井市メロブプラザにおいて開催しました。

「全国緑の少年団活動発表大会」は、緑の少年団員相互の研鑽と幅広い少年団活動の推進を図るため、全国から選ばれた緑の少年団と県内の緑の少年団が一堂に集い、代表団による活動発表やレクリエーション等を通じて交流を図るものです。

この発表大会では、公益



笠原小学校和太鼓



緑の少年団団旗入場

社団法人国土緑化推進機構とともに、静岡県も主催者として、身近な自然と緑を守り、育てる活動を行っている緑の少年団に応援メッセージを贈りました。

袋井市立笠原小学校による力強い和太鼓演奏による歓迎アトラクションに続き、全国から選抜された、静岡県、宮城県、茨城県、栃木県、愛媛県、の5団の代表少年団による団旗入場が行われたほか、県内からは11団の緑の少年団も

参加し、定員500名の会場は満席となりました。

静岡県代表の伊豆市月ヶ瀬小学校緑の少年団からは、シカの食害の現状をきつかけに天城の森や自然のことを学び、考えていく様子を発表していたいただきました。是非、来年4月に統合する新しい学校でも、活動を続けていただきたいと思っています。

当日の夜は、県立焼津青年自然の家に宿泊し、レクリエーション等を通じて多くの少年団の仲間と交流を深めていただきました。



代表団による活動発表

「ふじのくに」静岡県には、美しく雄大な富士山をはじめ、南アルプスなどの山々に広がる彩り豊かな天然

林、天竜美林に代表される人工林、伊豆半島の広葉樹林など、豊かで多彩な森林に恵まれています。多くの県民の皆様と身近な自然と緑にふれあうことから始め、静岡県

静岡県交通基盤部都市局 公園緑地課
県営吉田公園の指定管理者
「NPO法人しずかちゃん」が都市緑化機構会長賞を受賞

県営吉田公園は「自然に親しみながら、レクリエーションや憩いの場として、高齢者、身障者、子供達が安心して利用できる公園を目指す。」ことを目的に設置され、平成13年8月から供用開始しました。

このたび、公園の指定管理者であるNPO法人しずかちゃん、財団法人都市緑化機構主催の緑の都市賞で都市緑化機構会長賞を受賞しました。

この賞は、緑豊かな街づくりの普及と実現を目指す、「みどり」を用いた環境の改善、景観の向上、緑のサイクリクルなどに取り組み、卓越した成果を上げていく市民活動団体などに贈られる賞です。

今回の受賞は、ピオトープエリアにある「野の花の小径

の森づくりと一緒に進めていきたいと思っています。静岡県の森づくりに関する情報はホームページでも確認できます。「静岡森づくり情報」と検索してみてください。



「野の花の小径」作業状況

（こみち）の整備が評価されました。「野の花の小径」は、荒廃していたピオトープエリアの一部をボランティアとともに協働で整備しました。繁茂していた雑草木を除去しながら、キキョウ、オミナエシなどの秋の七草のほか、ワレモコウ、野菊の仲間など農山村から消えていきそうな草花



咲き誇るチューリップ(昨年の様子)

を植えていきました。これらの草花は、初夏から晩秋まで次々に花が咲き、来園者を楽しませてくれます。この「野の花の小径」を中心に、9月下旬から10月上旬にかけて、「秋の七草まつり」を開催しました。七草のガイドとともに様々なイベントを開催し、多くの来園者に楽しんでいただきました。

4月には、6日(土)～14日(日)まで、毎年恒例となつて「チューリップまつり」が開催されます。咲き誇るチューリップの展示とともに、各種イベントを用意し、皆様をお待ちしております。

花き関連事業の最近の動き

「花・緑タウンフェア in 沼津2012」開幕!

11月23日(金・祝日)

から25日(日)までの3日間、JR沼津駅南口周辺の商店街などで、「花・緑タウンフェア in 沼津2012」を開催しました。

初日の午前中はあいたくの雨で、来場者の出足が悪かったものの、その後、天気も回復し、多くの方々が街を訪れ、綺麗な花や緑の装飾を楽しみながら、花でいっぱい



仲見世通りに設置したハンギングバスケット作品

の街を楽しんでいたことができました。

今回は、静岡市、浜松市に続き3度目の開催ということもあり、様々な点でこれまでの経験が生かされました。例えば、花の展示やイベントのエリアをコンパクトに限定し、コンテナや1.5m程度のミニガーデンなどによるストリート装飾をはじめ、コンテストのハンギングバスケット作品や園児たちのコンテナ

また、店舗の花装飾は、より多くの店舗に参加してもらえるように、コンテスト形式をやめたことにより、昨年度の3倍近い55店舗の参加となりました。装飾方法も切花を使ったアレンジだけでなく、ハンギングバスケットやコンテナを店先に出すなど、



沼津垣ガーデン

様々な工夫が見られました。

また、分散した会場を結ぶウォークラリーには、家族連れなど多くの方々に参加して頂きました。

さらに、沼津に古くから伝わる「沼津垣」と、きらめく海をステンドグラスで表現した現代風オブジェに植栽した「沼津垣ガーデン」は、今回の展示の目玉となり、地元市民の皆様にも沼津垣の魅力を再認識していただく機会になったのではないでしょう

か。

今回の事業がきっかけとなり、商店街に花や緑が広がり、地域に根付いたものになることを期待します。

浜名湖花博10周年記念事業実行委員会設立

平成26年度は、浜名湖花博開博から10周年を迎えること

から、県では去る9月10日に、浜松市及び関係団体等で構成する実行委員会を設立し、会期は4月から6月の72日間、来場者目標は80万人とし、第31回全国都市緑化フェアを同時開催することなどを決定したところであり、現在、基本計画を策定しております。

準備期間が短いことなど、課題は山積していますが、県産花きの装飾展示や、県民参加型の展示と催し等を実施するとともに、都市緑化の推進を図るために、全国の自治体や造園企業等が参加する庭園コンテスト等を開催する予定です。来年度の早い段階から、様々な情報発信や出展勧奨を進めていく計画ですのでよろしくお願ひ致します。

静岡県造園施工管理技士会

新年のご挨拶



会長 渡辺 健彦
望月 敦彦

新年明けまして

おめでとうございます。

平成24年の年は我が国にとつて国土による外国との摩擦、それに伴い、景気の低迷、年末の総選挙等、各界をめぐる様々な事がありました。

大災害の後始末の遅れ、建設業の大切さが見直されたにも関わらず予算は圧縮されました。

本年は良い年になるよう願っています。

静岡県造園建築技術協会の10周年記念に参加の機会があり、京都府造園建築技術協会理事長（京都美大）の中村昌生先生の基調講演、近代和風建築の再考を聞きました。

庭園と建築との調和、庭園との一体化自然風景の中の建築等の考え方など自然風景に溶け込んだ京都の素晴らしさ

を見せていただき改めて共感を持ちました。

県文化財保護審議会会長の建部先生のシンポジウムがあり、鉄とコンクリートの中にあつて和風建築をいかに生かしていくかがテーマでした。

建築の設計者、大学の先生達100人以上が集い県内の近代建築の紹介など、個々の建築に占める自然風景の大切さが建築界の話題に触れ、心を強くしました。

私達の身近にあつた和風建築や庭園が次々となくなり、昔の面影が残っている所は少なく残念です。

最近、鎌倉を2日間旅行しましたが、昔の建物が数多く残されておりあります。

そんな場所は人々が集まり銀座のようです。人々が求めている豊かな自然とは、この様な場所だったのかと実感した次第です。

技術研修会

11月17日（土）、23人が参加して箱根湯元の研修施設の庭



石が多く使われ、地形に合わせて高低があり、奥行きを感じました



榎原教授の説明を聞く参加者

園を視察、研修しました。
当日は大変な雨模様でしたが、かえって秋の趣のある重厚な3000㎡もの広さの庭園をゆったりと見る事ができました。庭園は明星大学教授の榎原八朗氏が設計されたもので、わざわざ東京から説明にきてくださいました。

静岡県知事顕彰

中野 孝三 氏

9月13日、静岡市葵区の静岡県産業経済会館において建設産業構造改善のつどいが開催されました。

席上、株式会社愛樹園（東伊豆町）の中野孝三氏は、優れた技術、施工実績が高く評価され静岡県優秀施工者知事顕彰状が授与されました。



建災防本部表彰

渡井 清視 氏

10月18日、神戸市ワールド記念ホールにおいて、全国建設業労働災害防止大会が開催されました。



席上、株式会社大松園（富士市）の渡井清視氏は、業界の安全衛生水準の向上に大きく貢献したとして表彰されました。

西部支部の技術研修

11月16日（金）、西部支部では神奈川県で技術研修を実施しました。13人が参加し、三溪園、鶴ヶ丘八幡宮、鎌倉の大仏などを視察、庭園、緑地を巡りました。



お知らせ

平成25年度通常総会は平成25年5月10日（金）の開催予定です。

なお、通常総会時に懇談会を行うので、新年賀詞交歓会は開催しないことをお知らせいたします。

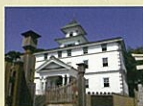
第5回 静岡県景観賞



東山旧岸邸



かなみ仏の里美術館



見付宿



桶ヶ谷沼



新東名とみかんの里「原・新丹谷」

静岡県景観賞の平成24年度受賞地区が、159件の応募の中から5地区が選定され、11月28日表彰式が行われました。

最優秀賞

●田園・農山漁村部門

新東名とみかんの里

「原・新丹谷」(静岡市)

優秀賞

●民間施設部門

東山旧岸邸(御殿場市)

●公共施設部門

かなみ仏の里美術館(南南町)

●まちなみ部門

見付宿の近世・近代の歴史遺産(磐田市)

●景観づくり活動部門

豊かな自然が残された

トンボの楽園「桶ヶ谷沼」(磐田市)



協会日誌

年月日	行事又は会議	年月日	行事又は会議
平成24年		11月 8日	啓発労働委員会
8月30日	育成管理巡回指導調査(9月16日まで、延べ10日間)	9日	全国育樹祭育樹活動会場育成管理支援(エコバ)
9月 4日	第2回静岡県景観講習会(焼津市)	10日	全国育樹祭お手入れ行事
10日	浜名湖花博10周年 実行委員会設立会議及び第1回総会	11日	全国育樹祭式典行事
11日	美景協 景観賞第1回現地調査	12日	都市緑化樹木育成技術講座
13日	美景協 景観賞第2回現地調査		一般社団法人静岡県建設産業団体連合会第3回理事会
	静岡県建設産業構造改善推進のついで	14日	シニアワーク造園緑化講習会(浜松会場)開講式
20日	静岡県造園施工管理技士会理事会	16日	花・緑タウンフェアin沼津2012実施説明会
21日	美景協 景観賞第3回現地調査、最終審査	19日	「花咲くしずおか」運動県民大会
25日	第3回理事会	20日	都市緑化樹木育成技術講座
10月12日	静岡県建設労働災害防止大会		第30回静岡県暴力追放・銃器根絶県民大会
23日	シニアワーク造園緑化講習会(藤枝会場)開講式	23日	花・緑タウンフェアin沼津2012(25日まで)
25日	全国育樹祭お手入れ会場育成管理調査	26日	都市緑化樹木育成技術講座
26日	全国育樹祭お手入れ会場育成管理支援		静岡県建設産業の主張2012
11月 1日	都市緑化樹木育成技術講座	28日	第5回静岡県景観賞表彰式
2日	全国育樹祭育樹活動会場育成管理調査(エコバ)	12月11日	第4回理事会
5日	シニアワーク造園緑化講習会(南南会場)開講式		
	全国育樹祭お手入れ会場育成管理支援		

平成25年1月1日発行

発行 公益社団法人 静岡県造園緑化協会 〒420-0031 静岡市葵区泉邸2丁目2番地 泉邸ビル4F

TEL 054-253-0586 FAX 054-251-9205 ホームページ <http://www.midorinotakara.org/>

編集 啓発労働委員会 題字 桑松文男氏



公益社団法人 静岡県造園緑化協会は、この「ふじのくに森の町内会」の紙を使うことにより、林地に植えられる間伐材を資源として活用し、静岡県の豊かな森林づくりをサポートしています。